



ハロウィンの波が八代にも 本町2丁目ハロウィンフェスティバル



▲各商店の前に列を作り、お菓子をもらう子どもたち

10月25日、本町2丁目アーケードで「本町2丁目ハロウィンフェスティバル」が開催され、アーケード内は仮装した人たちでいっぱいになりました。
魔女や悪魔、ゾンビ、オオカミなどに仮装した約200人の子どもたちは「トリックオアトリート（お菓子くれなきゃいたずらするぞ）」と口にしながらか本町2丁目の各店舗をまわり、お菓子を手に入っていました。
「アナと雪の女王」のエルサ姫の仮装綿田彩葉さん（6歳・松崎町）は「お友達が行くと聞いて、初めて来ました」と話し、白い魔女の仮装で参加した太田郷小3年の養原真子さんは「来年は赤ずきんで参加します」と笑顔で話しました。

元気に大きく育て 竹原神社稚児土俵入り



▲力士に抱えられ土俵入りした赤ちゃん力士たち

10月19日、竹原神社（竹原町）で子どもの無病息災を祈る「稚児土俵入り」が行われました。
これは同神社の秋季大祭の恒例行事で、1975年から始まりました。広域八代相撲連盟の力士が、紅白のねじり鉢巻と化粧まわしを身につけた生後6カ月から3歳未満の赤ちゃんを抱え土俵入り。「よいしょ、よいしょ」の掛け声に合わせて四股を踏むと、大声で泣き出す子もいれば、力士の腕の中でやすやすと眠る子もいて、その愛らしい姿に境内は和やかな雰囲気になりました。
東陽町から参加した上村結香さんは「悠人くん6カ月が、元気で健やかに優しい人に育ってほしい」と語りました。

しょうがの香りがいっぱい 東陽しょうが祭



▲勇壮なしょうが神輿も登場

10月25日、「第41回東陽しょうが祭」が石橋公園一帯で開催され、新しょうがをはじめ地元で採れた新鮮な野菜や果物を買求めるたくさんの人で賑わいました。
品評会で金賞に輝いたしょうがの前では、その見事な形と大きさに歓声が沸き起こり、写真を撮る人でいっぱいになりました。
ステージでは、秀岳館高校雅太鼓の演奏を皮切りに、メインステージの歌謡ショーまでいろいろなアトラクションが繰り広げられ、来場者を楽しませました。
また、保育園児によるかわいい神輿や消防団を中心とした勇壮なしょうが神輿が祭りに花を添えました。

い草を楽しむイベント盛りだくさん せんちょうい草の里まつり



▲久しぶりの登場となった「いぐさくんみこし」

10月18日、千丁町のいぐさの里公園で「第34回せんちょうい草の里まつり」が行われ、家族連れなどで賑わいました。
おまつり広場では、新市誕生10周年を記念して、い草のキャラクター「いぐさくん」のみこしが十数年ぶりに登場。続いて、地区の子ども会などによる子どもみこしとJAやつしろ青壮年部による重さ1.5tのい草みこしが現れ、観客から歓声が上がりました。その他、花ごご手織り体験やい草コースター射的、い草10kg重量当てなどが行われ、楽しむ人の姿が多く見られました。
子どもみこしに参加した西条世奈さん（千丁小4年）は「皆でみこしを担いで楽しかったです」と話しました。

100歳 おめでとうございます



大蔭 文さん
(毘舎丸町)

大正4年10月31日生

本町で8人きょうだいの7番目、長女として生まれ育った文さん。兄が住む東京で過ごした後、八代に戻りました。
茶道を90歳の頃まで続け、その腕前は指導もしていたほどです。
病氣もあまりしないという文さんの長寿の秘訣は「3食きちんと食べ、自分のことは自分ですること」。



坂本 マツエさん
(葭牟田町)

大正4年10月25日生

現在、施設で暮らしているマツエさん。4人きょうだいの長女として球磨で生まれ育ち、八代の農家に移り住んで農業をして生活しました。
施設内で一番風呂に入るために、先頭に並んでいたほど入浴が大好きというマツエさんの長寿の秘訣は「好き嫌いなく何でも食べる」こと。

通学路が季節の花でいっぱい 八代ロータリークラブせせらぎ水路植栽作業



▲スコップを使って丁寧に苗を植える参加者

11月5日、八代一中生徒会のボランティア委員会と園芸委員会の生徒たち約80人と、八代ロータリークラブのメンバー30人などが、一中の北側を流れる「せせらぎ水路」周辺の緑の回廊線で花の苗植えを行いました。
これは、八代ロータリークラブ（北原英則会長）が社会奉仕活動の一環として実施しており、今年で7年目です。
花の苗はノースポールや金魚草、ナデシコ、ビオラの4種類です。参加者は2340本の苗をポットからはずし、丁寧に植えていきました。今後、水やりなどの世話は一中の生徒たちが行います。
谷崎太紀くん（3年）は「通学路がきれいになって気持ちいい」と話しました。

火あそびはしません 八代広域幼年消防大会



▲キビキビとした動きで通常点検を行う勝専坊学園幼年消防クラブ

11月7日、八代広域行政事務組合消防本部で「第8回八代広域幼年消防大会」が開催され、八代管内16の保育園・幼稚園の園児約660人が参加しました。
第1部では、八代広域優良幼年消防クラブ表彰が行われ、太田郷幼稚園、植柳幼稚園、麦島幼稚園、千丁幼稚園の代表園児が八代広域幼年婦人防火委員会会長の寺本光弘消防長から表彰状を受け取りました。
第2部では、各幼年クラブの防火演技披露や勝専坊学園幼年消防クラブによる通常点検、くまモンと一緒に防火〇×クイズなどが行われました。最後に防火の誓いを全員で行い、防火防災意識を高めました。

秋晴れの日 坂本ふれあいまつり



▲60kgの米俵を高々と担ぎ上げる出場者

11月8日、「第29回坂本ふるさとまつり」がグリーンパークさかもとで行われ、地元の人や家族連れなどで賑わいました。
販売ブースでは、特産品のぼたもちや天然鮎の塩焼きなどが並び、多くの人が買い求めていました。また、地元出身のホテル

熊本テルサの土山憲幸総支配人が考案した「立冬の家族鍋」の販売も行われ、長蛇の列ができるほどの人気ぶりでした。
毎年恒例の「米俵担ぎ大会」では、男性60kg、女性30kgの米俵を肩まで担ぎ上げる競技に男女5人ずつが出場。「よいしょ」「頑張り」など声援が送られていました。米俵担ぎに成功した谷岡和夫さん（熊本市）は「元陸上自衛官で体力に自信はありました。いい思い出ができました」と息を弾ませながら語りました。



水とみどりのふれあいスクール



▲散策途中で野鳥について学ぶ参加者

10月31日、「第21回水とみどりのふれあいスクール」が水無川ほとたるの里公園で開催されました。小学生とその保護者など約110人が参加し、妙見創造の森の散策と間伐作業見学、ネイチャークラフト作りなどを行いました。

散策では、熊本県森林インストラクターから植物の説明を受けながら、どんぐりを拾ったり、山道を踏む感触をかみしめたりして会話を弾ませていました。木下伊織さん(松高小5年)は「いろいろな木の名前を知ることができてよかったです」と笑顔で話しました。

水難救助隊合同訓練



▲フローティング担架に乗せ救助者をベルトで固定して救出

10月29日、八代港外港で「城南ブロック消防本部水難救助隊合同訓練」が行われ、城南地区の消防本部(入吉下球磨・水俣芦北・上球磨・八代)が参加。潜水隊員や支援員など約40人が訓練に励みました。

海域から救助者を引き上げる訓練では、隊員がフローティング担架を使い救助。救助者を担架に乗せベルトで固定し、水難救助専用車両のクレーンを使って担架を引き上げ救出しました。この他、泳力強化や捜索訓練、津波・大規模風水害対策車取扱い訓練などが行われました。

ふるさと八代を毎年応援しています



▲寄附金を手渡す田口武さん(右)

東京でリサイクル会社を経営している千丁町出身の田口武さんが10月19日、市役所を訪れ、ふるさと納税として寄附金100万円を中村博生市長に手渡しました。

ふるさと納税制度は、平成20年の地方税法改正により自治体などに寄附をした場合、翌年度の個人住民税が一定額まで控除される制度です。この制度が始まる前から寄附を続けてきた田口さんは「約40年前から公民館や小学校に寄附を続けてきました。今後の税制改正によっては法人としての寄附に取り組みたい」と話しました。

秋季全国火災予防運動パレード

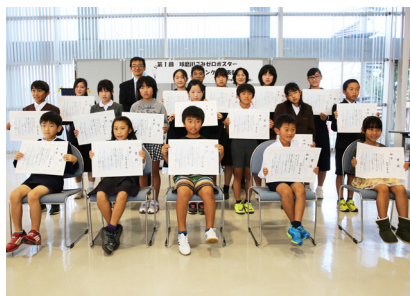


▲消防本部を出発

11月8日、消防団や広域行政事務組合、市などの関係者約120人が火災予防を呼びかけるパレードを行いました。

出発を前に山本一樹消防団長が「10月から火災が多発しており、全国では子どもが亡くなる痛ましい事例も発生している。八代で同様のことが発生しないよう火災予防運動に尽力してほしい」とあいさつ。その後、消防車や赤バイ、広報車に乗り込み、市内を巡回しながら火災予防の呼びかけを行いました。

球磨川ごみゼロポスターコンクール表彰式



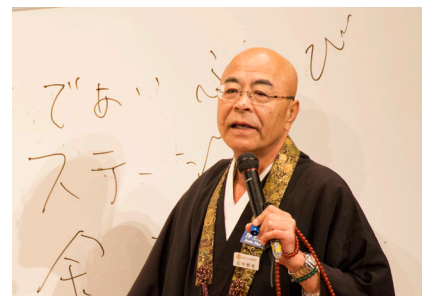
▲入賞した皆さんと関係者

11月8日、「第1回球磨川ごみゼロポスターコンクール表彰式」がやつしろハーモニーホールで行われ、関係者約60人が出席しました。

138点の応募から入賞作品20点を選ばれ、貴名功二国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所長から表彰状と副賞のライフジャケットなどが手渡されました。

中学生・高校生の部で金賞を受賞した黒田梨紗さん(県立八代中学3年)は「川への不法投棄が無くなることを願って絵を描きました。受賞できてうれしいです」と笑顔で話しました。

ふれあいフェスタ



▲体験談を語る廣中邦充さん

11月7日、やつしろハーモニーホールで「八代市ふれあいフェスタ」が開催され、多くの市民が参加しました。

市民ホールで行われた福祉講演会では、浄土宗・西居院第21代住職で教育評論家でもある廣中邦充さんが「We're you that I've been through」と題して講演。自身の闘病生活を通して経験したことなどを紹介しながら、「あなたがいてくれたよかったです」と思えるようなまちづくりや人づくりを進めていく必要がある」と人とのつながりの大切さを力説しました。